

協働学習に対する児童・生徒の認識と学級適応感および学習行動の関連

一柳智紀 (新潟大学)

キーワード：協働学習，学級適応感，学習行動

問題と目的

近年、他者との協働はこれからの社会において必要不可欠であることが指摘され、ペアや小グループ、学級全体で他者と関わりながら学ぶ協働学習の有効性が明らかにされている (e. g. Enyedy & Stevens, 2014)。一方、他者と関わって学ぶことに対して苦手意識をもつ児童・生徒の存在 (e. g. 丸山, 2014; 杉本, 2017) や、協働学習に対する認識が学校への適応感にも影響を及ぼすことが指摘されている (石橋, 2014)。そこで、本研究では主として学校生活を過ごし、ともに学ぶ集団である学級への適応感に着目し、さらには協働学習における学習行動にも着目し、協働学習の認識と学級への適応感や学習行動との関連を探索的に検討することを目的とする。

方法

協力者 A 県内の公立小学校 2 校に在籍する 3 年生 136 名、4 年生 168 名、5 年生 137 名、6 年生 176 名および公立中学校 2 校に在籍する 1 年生 172 名、2 年生 114 名、3 年生 121 名。

調査内容 ①「協同学習中の学習行動尺度」(中西ら, 2018) 18 項目について 5 件法で尋ねた。②「協同作業認識尺度」(長濱ら, 2009) 18 項目について 5 件法で尋ねた。いずれも大学生向けに作成されていたため小・中学生用に文言を修正した。③「学級適応感尺度」(江村・大久保, 2012) 15 項目について 4 件法で尋ねた。④石橋ら (2014) を参考に、協働学習において「苦手なこと」「不安に感じること」を自由記述で尋ねた。

結果

因子分析の結果 因子分析の結果、「協同学習中の学習行動尺度」については「価値づけ」($\alpha = .84$)、「意見表明」($\alpha = .80$)、「傾聴」($\alpha = .81$)、「関連情報の探索」($\alpha = .79$)、「支援」($\alpha = .83$)、「授業外学習」($\alpha = .75$) の 6 因子が、「協同作業認識尺度」については「協同効用」($\alpha = .85$)、「個人志向」($\alpha = .70$)、「互惠懸念」($\alpha = .57$) の 3 因子が、「学級適応感尺度」については「居心地の良さ」($\alpha = .94$)、「被信頼感・受容感」($\alpha = .86$)、「充実感」($\alpha = .87$) の 3 因子がそれぞれ抽出された。

相関関係 各尺度間の相関係数を Table 1 に示す。学習行動のいずれの下位尺度も「協同効用」や「居心地の良さ」「被信頼感・受容感」「充実感」と有意な正の相関を示していた。一方、「協同作業認識」のうち「個人志向」や「互惠懸念」は他の変数と

有意な負の相関係数を示していた。

Table 1 変数間の相関係数

	価値づけ	意見表明	傾聴	関連情報の探索	支援	授業外学習	協同効用	個人志向	互惠懸念	居心地の良さ	被信頼感・受容感	充実感
価値づけ		0.57*	0.55*	0.60*	0.50*	0.64*	0.46*	-0.17*	-0.1	0.26*	0.42*	0.39*
意見表明			0.64*	0.49*	0.55*	0.46*	0.47*	-0.07	-0.14*	0.28*	0.43*	0.39*
傾聴				0.42*	0.52*	0.45*	0.58*	-0.26*	-0.19*	0.39*	0.50*	0.51*
関連情報の探索					0.41*	0.55*	0.31*	-0.08	0.01*	0.19*	0.27*	0.30*
支援						0.45*	0.54*	-0.13*	-0.21*	0.34*	0.44*	0.41*
授業外学習							0.40*	-0.04	-0.03	0.20*	0.31*	0.34*
協同効用								-0.35*	-0.22*	0.52*	0.53*	0.60*
個人志向									0.43*	-0.28*	-0.23*	-0.30*
互惠懸念										-0.17*	-0.16*	0.83*
居心地の良さ											0.66*	-0.16*
被信頼感・受容感												0.70*
充実感												

自由記述の分類 得られた自由記述をその内容によってコーディングを行なった結果、Table 2 のように分類することができた。

Table 2 抽出された苦手・不安なことカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	概要
積極的発言	考えの発信	グループの中で自分からすすんで考えを発言する
	全体での発表	全体の前でグループの考えを発表する
メンバーとの思考	他者の考えとのすりあわせ	異なる他者の考え同士を比較検討したり、調整したりする
	考えの整理	話し合いや考えをまとめること
	考えの創発	新しい考えを生み出すこと
認知的不安	不十分な検討	一部の考えで話し合いが済む、全員が納得するまで話ができている
	自分の考えを持つ	自分の考えが持てない、思い浮かばない
	間違え・失敗	間違えること、失敗することを不安に思う
思考を促す関わり	正解かどうか	考えたことがあっているかどうか、正解かどうか
	考えの相違	自分の考えが他のメンバーと異なること
	理解の遅れ	皆についていけず、理解が遅れてしまうこと
否定的反応	他者の受容	メンバーの考えを聞いて、理解する
	メンバーへの応答	メンバーの考えに対してコメントや質問をする
	メンバーへの支援	教えたり、手伝うなどしてメンバーを支援する
メンバーとの関係性	説明	伝わるように適切な説明をすること
	援助要請	わからないところを教えてもらったり、助けをもってもらえる
	考えを理解してもらえないか	相手に考えが伝わらるか、理解してもらえないか
マネジメント	否定	自分の考えに対し、進うと指摘されたり、否定されたりしないか
	嘲笑・叱責	自分の考えに対し、ばかにされたり、笑われたり、責められたりする
	無視	自分の考えが無視されないか、聞いてもらえているのか
責任の所在	関係の浅さによる話しにくさ	あまり話したことがないメンバーとの交流の難しさ
	消極的なメンバー	参加に積極的ではないメンバーがグループにいる
	メンバーへの気遣い	メンバーへの発言がグループの輪に加わるかどうか
トラブル	なまははずれ	自分がグループの役に立っていないか
	グループへの貢献	メンバー全員が協力して進められるか
	協力	メンバー全員が協力して進められるか
責任の所在	メンバーとの不和	仲が良くない人との交流の難しさ
	話し合いの停滞	発言があまりでない、理解が不十分のために話し合いが進まない
	話し合いの進行	話し合いをうまく進めることができない
責任の所在	進捗の遅さ	グループだと時間がかり、進捗がおそい
	コミュニケーション自体	話し合うこと自体が苦手
	進捗責任	全員が責任を担う
トラブル	責任の押し付け	誰か一人に責任がおおされる
	いざこざ	けんか、言い合い、暴言などで揉める
	おしやべり・ふざけ	関係のない話は課題と異なることになってしまう
	手抜き	メンバーが手を抜く

考察

相関関係から、協働学習に対して否定的な認識を持つ児童・生徒ほど学級での適応感が低いことが示された。また、自由記述の分析から、協働学習において児童・生徒が苦手・不安に感じることは多岐にわたっていることも示された。今後、協働学習に対して否定的な認識を持つ児童・生徒がどのような点を苦手・不安に感じているのかを検討し、必要な支援の在り方を検討していくことが必要である。